



## 脱皮・衣替えのすすめ

岐阜大学大学院医学系研究科知能イメージ情報分野 **藤田 広志**

まずは、記念すべき『画像通信』の70号の発刊、おめでとうございます。石田画像分科会長より「中味は何でも良いから自由に何か記念号に文章を寄せるように。」との難しい依頼を受け、原稿〆切がすでに過ぎたいま、重い腰を上げてパソコンに向かっています。

最初にタイトルに困りました。書庫を見ると、画像通信は全号綺麗に整列して、1978年8月1日発行の第1号から、最新の2012年10月発行の第69号まで、35年間に発行されたすべての冊子が、大きな損傷もなく綺麗に揃っています（余談ですが、1978年は小生にとっては岐阜高専の助手に赴任した年で、給料をいただいて研究を始めた年になります）。初号から全部を持っている会員は、そんなにはおられないでしょうから、そろそろプレミアが付く頃でしょうか？ という訳で、タイトルは「70冊、全部持っています！」と仮に決めておいて、まず自慢しておきましょう！ これら全部の厚みは何と20cmを超え（かなり重いです）、これも歴史の重み、というものでしょうか。

何を書こうか思案しながら、書庫の中の一連の画像通信の冊子の中で、一番分厚く存在感のある「通巻50号記念特集号」(Vol. 26, No. 1, 2003年3月発行)を引っ張り出しました。そこには、初代画像分科会長の故内田 勝先生の「画像分科会今昔」(p. 29-p. 30)の寄稿記事を筆頭に、第2代会長の故山下一也先生の「≪画像について語ろう≫を語る」(p. 31-p. 35)、第3代会長の小寺吉衛先生の「私の画像分科会時代」(p. 36-p. 39)の立派な記事があります。そして、最後には小生(1996年から5年間、分科会長を務める)の駄文「画像分科会を振り返る」(p. 40-p. 42)までが掲載されています。ということは、小生自身、すでに2003年3月に過去を振り返っていました。その後、桂川茂彦先生、杜下淳次先生、そして石田隆行先生の3名の分科会長が会の指揮を執られ、今日に至っています。この間、画像分科会業務のスタイルなど大きな変化はないものの、初期の活動形態がしっかりと受け継がれ、いつも会員に貴重な最新の情報を発信し、また、セミナー等の興味ある各種連続企画を実行していると思います。

2003年3月の拙文の最後のパラグラフに、自画自賛ではありますが、なかなか良いこと

が書いてあります。その思いは10年経ったいまも不変でまったく変わりませんので、本文でも同じ文章を以下に引用しましょう。ただし、「工学博士」は「工学博士または保健学博士」などに、「50号」は「70号」に置き換えて読んでみてください。

『画像分科会は、日本放射線技術学会の画像における先駆的なリーダーの存在であり続ける必要があると考えます。その意味でも、委員の大多数が工学博士取得者のメンバーで構成されており、また、現役で研究をし、学術論文を書き、研究の最前線にいる必要があります。工学系や医療系の大学教官がこれほど委員を務めている分科会は画像分科会だけです。創刊号第1ページの当時の内田会長の原稿「出会い」にもありますように、「後世に残る業績はここから出そう」の意気組みで進みたいものである」が画像分科会の永遠の基本精神と信じます。ここに通巻50号の記念号の発刊を祝福するとともに、今後の画像分科会の益々の発展を祈りつつ、筆を置きます。』と。

この文面を読んでみて、筆を置く前に、一言、敢えての追記を試みましょう。すなわち、画像分科会は、このあたりで会の各種の企画方針などを再度議論し、いまさらなる脱皮を検討する時期にそろそろ来ているのではないのでしょうか（蛇年と言うわけではありませんが）？ 最近、保健学科系教員や博士号を受領した一般会員も増えていきますし、より学術指向の会員も以前に比べ、かなり多くなってきていると思います。どう脱皮すると良いのか（その必要性も含めてですが）、それは委員会で議論していただければ幸いです。脱皮と言っても、すでに、ある一定レベルの完成されたすばらしい運営形態になっているので、むしろ“衣替え”という表現の方がぴったりするのかも知れません。同じ企画・運営内容でも、人の入れ替わり、表現の変化により、意外と新鮮味が増すのではないのでしょうか？ 一例をキーワードで列挙しますと、「本音で画像を語ろうかい（会）」（企業の中堅技術者さん、ベテラン女医さん、工学系中堅研究者などを招聘して）、本音の医工連携企画、最新RPT誌の関連論文紹介欄、画像通信デジタル版（スマートフォンにも対応版）、次世代画像通信10年分でデジタルハンドブック刊行、などなど…。英知を結集すればアイデアは尽きないと思います。本分科会は日本放射線技術学会を常に学術面での最前線で模範となり、リードする立場を疾駆してほしいと願います。

と言うように最後に書いてしまいましたので、表題は「脱皮・衣替えのすすめ」にしておきましょう。最後になりましたが、本分科会の益々の発展を祈っております。